

伊藤泰樹議員

新型コロナウイルス対応地創生臨時交付金で医療・介護従事者や市全体の底上げを

ウイルス感染症対策について

伊藤 市内経済の疲弊した状態をどう把握しているのか。
産業経済部長 4月～9月は市内事業所の7割が減収。特に観光に關する事業所が最も大きく、売上減少が著しく長期化している。

伊藤 新型コロナウイルス感染症対応地創生臨時交付金の、今後の活用は。
総務部長 前向きに検討している。

伊藤 一つは医療・介護従事者、一方で市全体の底上げの実行を重ねて申しあげる。

「がけ地の安全対策について」
伊藤 個人が行う「がけ地」の安全対策工事について、工事の補助

を含め、積極的に取り組むべき。

産業経済部長 「がけ地」に限らず個人の住宅・敷地は原則自己負担。しかし、個々のケースに応じて国・県の補助事業を有効に活用して安全対策を進めていきたい。

住宅取得助成について

伊藤 本市の住宅取得制度の広報と制度拡充をどうされるのか。

市民生活部長 総合的な定住施策のなかで見直すべきところは見直し、時代のニーズを捉えながら充実したものにしていきたい。

市長 住宅政策は喫緊の課題と認識している。新築しようと思っ頂けるような支援助成制度、また他の施策と相まって決断して頂けるようにしっかりと取り組みたい。

川上医療センターの評価を問う

金尾恭士議員

川上医療センターについて

金尾 川上医療センターをどのように認識・評価しているのか。

市長 総合計画のアンケートの中にも「重要度が高い・満足度も高い」という記述があった。地域医療を守っていただけており、高く評価させていただいている。

次期高梁市総合計画について

金尾 市民の要望をどのように把握し、反映させているのか。

市長 市民アンケートの実施・タウンミーティング・各種団体の代表者等から意見の聴取を行い、現在パブリックコメントを実施中である。

有漢義務教育学校について

金尾 有漢義務教育学校については、教育委員会が積極的にリーダーシップを取るべきではないか。

教育長 保護者・地域からの要望があがり、地域とともに進めている。協力しながら、必要な場面では、教育委員会がリーダーシップを取っていきたい。

陰山メソッド 百ます計算、漢字の集中学習、音読指導を三本柱として、そこから多様に思考する学習方法。

平松久幸議員

地域への愛着に大切な役割を担うイベントの補助金見直しの検討を

イベント補助金見直しについて

平松 運営内容を、運営団体と十分調整しているのか。
市長 地域の皆さんが一生懸命活動をしている。今後、実行委員会組織と話をしていく。

平松 見直しにあたり、市として指導する内容は検討しているか。
市長 事業として続けていくには自主財源が必要。どう確保していくか、運営団体に検討いただく。

平松 今後、目標金額はあるのか。
市長 市民ボランティアだけではなく、最近では専門職種に頼む比重が多くなりつつある。金額がどうこうではなく実行委員会と一番良い方法を考えていく。



▲備中松山踊りなどイベント補助金も行政改革の対象に

小柴健男議員

認知症徘徊者のため支援の拡大を

憲法をくらしに生かすことについて

小柴 憲法は国の最高法規である。高梁市として、これまでどのように生かし、これからも生かそうとしているのか。

政策監 これまでも、憲法がうたう、国民主権や基本的人権、平和主義を市行政に生かしてきた。今後も憲法を尊重していく。

徘徊者見守り支援の強化を

小柴 認知症徘徊者の事件が頻繁に見受けられる。徘徊SOSネットワーク事業をさらに拡大した支援対策が必要ではないか。

健康福祉部長 現在は登録数も少ないので、広報を行うとともに、支援連携協定などの拡大も検討していきたい。

市道の維持管理について

小柴 市道の管理責任は誰にあるのか。

産業経済部長 管理者は市である。小柴 管理者が市であるのなら、市民から出た修繕の要望には応えるべきではないか。

産業経済部長 要望に対して、現在8割程度実施できている。小柴 生活関連施設は、町内会等の負担を求めず、実施すべきでは、産業経済部長 財政が厳しい中、現状でお願いしたい。緊急性や優先度を検討しながら、施行していきたい。